

フェザー採皮刀

再使用禁止

【警告】

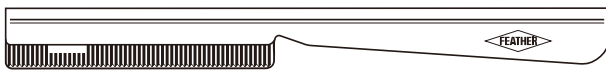
- 非常に鋭利な刃物であるため、取り扱いに注意すること。
[切傷、穿刺等のおそれがある。]

【禁忌・禁止】

- 再使用禁止。[感染症を引き起こすおそれがある。]
- 本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

形状



組成: 刃部/ステンレス鋼
柄部/スチール

原理: 本品は、火傷(やけど)等の採皮・植皮に用いる切刃である。

【使用目的又は効果】

皮膚移植組織の採取に使用する。

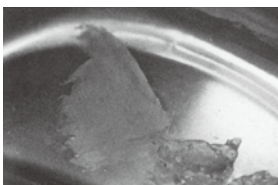
【使用方法等】

包装を開封して取り出し、そのまま使用してください。

採皮



第1図 皮膚を平に緊張させ、
採皮しているところ。



第2図 採皮した皮膚片。
生理食塩水中に浮き広がる。

- ① 第1図に示す様に助手に一方の皮膚を平に押さえさせ、術者の左手で皮膚を押さえて緊張させる。
- ② 軽くDermatomeを保持し、刃を前後に動かしながら皮膚を削る。
- ③ 採皮部は下腹部が一番採皮しやすいが、平坦な所ならどこでもよい。
- ④ 厚さは第2図の如く紙のように薄く、生食水に入れると広がって浮く程度にとる。
- ⑤ 採皮部はインターチュール、或いはソフラチュールをのせ閉鎖。7～10日後、表皮化治癒。浸出物があまり多い時は上層のみ交換する。
- ⑥ ハガキ大の採皮でDermatomeを交換する。

Debridementと植皮



第3図 点状出血を見るまで
Debridementを施行する。

- ① Dermatomeで採皮の場合と同じように壊死組織を削除する。点状出血を見る健常組織までを目標にする。(第3図)
- ② Debridement後は一万倍のアドレナリン液をガーゼにひたして圧迫止血する。
- ③ 皮膚片の表裏を間違えないように専用のヘラにひろげ、Debridementした創部にすき間なく移植する。
- ④ 皮膚片はうすいので縫合、テープ固定は出来ない。インターチュール或いはソフラチュールをのせ、ガーゼをあてて、バンソー膏固定する。ずれる恐れがある所や小児の場合は周囲の健康皮膚に糸をかけtie-over固定するとよい。
- ⑤ 術後5日目に開創し、ずれた所や生着しなかった所は2～3日後再び同様に植皮する。
- ⑥ 完全に表皮化したら2～3ヶ月間 steroid含有軟膏を外用し圧迫するとともに、色素沈着を防ぐために遮光する。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- 軟骨・骨などの硬組織には使用しないこと。
[刃先が破損するおそれがある。]

【保管方法及び有効期間等】

- 高温・多湿、直射日光及び水濡れを避けて室温で保管すること。
- 使用期限は製造日より5年。(自己認証による)

例. 〇〇〇〇-〇〇 は使用期限〇〇〇〇年〇〇月を示す。

- 製造年月日はロットナンバーにより明示。

LOT 00 00 0000

製造年西暦下2桁 製造月 製造バッチ

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売元>フェザー安全剃刀株式会社 美濃工場
岐阜県美濃市松森600-1 TEL.0575-33-1855

<製造元>フェザー安全剃刀株式会社 本社
大阪府大阪市北区大淀南3-3-70 TEL.06-6458-1631

<お問い合わせ先>フェザー安全剃刀株式会社 東京支店
メディカル商品部 TEL.03-3864-0917